

厳選良問

～ 難しい用語で動揺を誘う良問 ～

分野

介護技術分野

出典

介護福祉士試験(第29回-問題43)

問題

問題 頸髄損傷(第6頸髄節まで機能残存)の利用者が自分で更衣できるようにするための介護福祉職の助言として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 かぶりの衣類より、前あきの衣類を勧める。
- 2 スポンの更衣は座位で行うように勧める。
- 3 ファスナーはボタンに変えるように勧める。
- 4 靴下にループをつけるように勧める。
- 5 上衣の着脱は仰臥位で行うように勧める。

ポイント&解答

資格別試験対策

社会福祉士	精神保健福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	保育士
★★	★★	★★★	★	★★

注) ★★★…必ず学習!! ★★…できれば学習! ★…余裕があれば確認 ×…学習しなくてOK

試験対策ポイント解説

「頸髄損傷」「第6頸髄節」といった用語をみると、なんか難しいそうに感じます。しかし、言葉は悪いかもしれませんが、障害がある方にとってやりやすい動作・行為は、障害のない方にとってもやりやすい動作・行為であるというように捉えると、「自分だったら～」という視点で考えても問題ないといえます。

もしくは「小さな子ども」を連想して考えると、容易に正解が分かるかと思えます。トレーナーは自分で着ることができると、シャツになると「ママ、ボタンやって!」という子どもも多いのではないのでしょうか。

「頸髄損傷」「第6頸髄節」を見て、「手指の細かい動作が困難」といった特徴をすんなり思い描くことができることも試験合格には大切なことですが、「難しい用語を簡単なものに置き換える」という小技を使ってみることも、効率的に得点を稼ぐには必要なことだといえます。

双方を上手く使い分けることも、念頭に入れて学習を進めてみてください。

解答

4

